

21J-am10S

薬局における唾液検査の実施及び口腔セルフケアの情報提供の有用性

○柴野 孝一¹, 岩田 紘樹^{1,2}, 岡崎 光洋³, 藤巻 弘太郎⁴, 小林 典子^{1,2}, 藤本 和子¹, 五島 朋幸⁵, 山浦 克典^{1,2}(¹慶應大薬, ²慶應大薬局, ³東大院薬, ⁴ふばいオハナ歯科, ⁵ふれあい歯科ごとう)

【目的】薬局には地域住民の健康の維持・増進を支援する機能が求められている。一方、口腔疾患は全身疾患にも関連しており、口腔環境の維持が重要であるが、薬局の支援に関する報告はほとんどない。本研究では、薬局に来局した患者を対象に唾液検査の実施及び口腔セルフケアに関する情報提供が患者の口腔セルフケア習慣や歯科受診に与える影響を明らかにする。

【方法】2018年6月11日～2018年7月13日に慶應義塾大学薬学部附属薬局の来局者84名を対象に、唾液検査及び口腔セルフケアに関する情報提供を実施した。口腔セルフケアや歯科受診、唾液検査の満足度等に関する自記式質問紙調査を行い、1ヵ月後に追跡質問紙調査を実施した。

【結果・考察】唾液検査、情報提供ともに満足度は96%と高く、唾液検査に対して「結果がその場で分かる」(81%)、「測定が簡単」(70%)、「口腔セルフケアを見直すきっかけになる」(60%)の回答が上位を占めた。追跡調査の回収率は67%(56/84)であった。唾液検査の実施前後で、「甘い食品や飲料を控えている」回答が43%(24/56)から61%(34/56)へ有意に増加した(P=0.021)。また、定期歯科健診を受けていなかった12名中1名(8%)が新たに受診し、6名(50%)が「受診しようと思っている」と回答し、歯科受診に対する意識の変化を促した可能性が示唆された。

【結論】薬局における唾液検査の実施及び口腔セルフケアの情報提供が口腔セルフケア習慣及び歯科受診行動を変容させる可能性が示され、地域住民の口腔疾患の早期発見及び予防に対する有用性が示唆された。